

## 頑固な防犯鉄網が 起こした悲劇

十月二十八日の午前、中国浙江省寧

波市の一軒の高層マンションで火事が発生した。四階住民の邸という人の家から発火した。その時、35歳のお母さんと5歳の息子さんはベランダに逃げて、大きな声で救助を求めた。間もないうちに、消防隊員がベランダの近くに登ったが、彼らの援助活動を妨害したのは、頑固な防犯鉄網である。一方、部屋の玄関の扉も頑丈な鉄筋で作った物で、簡単には破れなかった。やっと、大きな機械で鉄の門を撤去して、部屋に入った時には親子二人とももう亡くなっていたのである。

初めて中国に行ったある外国人が一番違和感を覚えたことは、都市の全ての住宅のベランダの防犯鉄網と玄関の

鉄の扉のことである。万一の火事・地震の際には、それらは救助活動にとって非常に邪魔な存在である。当然、何故そういうものを作るかという疑問が出てくる。

今日では、中国の農村地域の相当部分の人々は故郷を離れ、都市部にやってきました。日本と違い、彼らの戸籍・就労・住宅・教育等の基本生活は保障されていない。中国の現行制度は、都市部の出身者と農村部の出身者に対する待



遇を全く別々のものにしてている。農村出身の人の一部は慣れない都市部で仕事を容易に見つけられないため、窃盗等の罪を犯す道を歩み始める。当然、都市の裕福な人々は彼らの標的になる。

犯罪が横行する環境で、都市部の出身者が保身をする方法は、自分自身で防犯に気を付けることしかない。しかし一方で、防犯を厳重にする余り、災害が発生したときにそれらの防犯設備は逆に命取りになりかねない。

結局は、現在の都市出身者、農村出身者に対する別々の制度を廃止し、新しい平等な制度を作り直すことが、安定・安全な社会にとって必要な条件だと思ふ。

しかし、都市部の出身者はこれに必ず賛成するとは限らない。彼らは農村出身の人々を労働力として使いたいため、平等など望んでいないというのが本音かもしれない。これは中国の社会問題を解決することが出来ない理由の一つである。